

那覇市立銘苅小学校校内研修焦点授業

研究主題：『全員参加型の授業づくり』

～ 互いにかかわり学び合う授業づくり ～

- (1) 単元名： 感想を話し合おう
- (2) 教材名： 川とノリオ
- (3) 本時の目標： 優れた表現を味わいながら人物の心情を読み、優れた表現についての感想を話し合う。

27年度初めての訪問である。銘苅小にかかわって3年目になる。校長が変わり、職員も半分以上入れ替わった。「学ぶ力」は子ども達よって次へと引き継がれる。校長が変わっても、教師が変わっても、子ども達の「学びの灯」は絶やしてはならない。

前年度の担任がいる。去年頑張ったみんなの力を徒勞に終わらせることは出来ない。6年担任のS先生のポリシーがある。この子達と学びたい、この子達から学びたい、謙虚に子ども達を受け入れる授業者の柔らかな姿勢がある。本日の校内研修は講師を2名招聘し、低学年部会(1年)と高学年部会(6年)の2つの授業が準備された。3年目の銘苅小の底力を見せてもらいました。



〔前時まで学習の確認〕

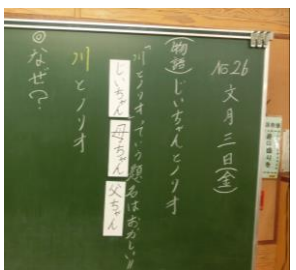
何の躊躇もなく、自分の考えを言葉にする。発言者に緊張感がない。聴き手に失礼にならないよう言葉を選んでいる。自分の考えや思いを相手に伝えることは、大人でさえ難しさがある。僕なりの言葉を使って相手に伝わるよう目線や表情も表現のツールとなる。

それにしても写真①、このクラスの仲間たちの仲間に向けられる姿勢が素晴らしい。明らかに「分かってあげたい」気持ちが見え、視線に表れている。学び合い・きき合う授業づくり3年目、「さすが6年生」去年よりはるかに成長していることを確信する。

学びの作法に「慎ましくきき合う」とある。・・・この姿勢ではないだろうか。



〔 問1：なぜ題名が「川」とノリオなんだろう。 〕



授業者から問が下ろされると、子ども達の表情が一変し我武者羅に向かい合ってきた。お互いの考えを尊重し合ってきたきき合い、子ども達各々の感性が「学び」のネタとなる。決して言い合うのではなく、視線を合わせ、互いにゆすり合いながら、学びが深まる。・・・圧巻である。

Sさん：ノリオは小さい頃から、父ちゃんも母ちゃんもいなくなったけど、川だけは、ずっとノリオと一緒にいたから。

Tさん：(教科書のページを最初から何度もめくり挿絵を見比べながら)

川はノリオにとって唯一変わらない存在で・・・(言葉につまる)

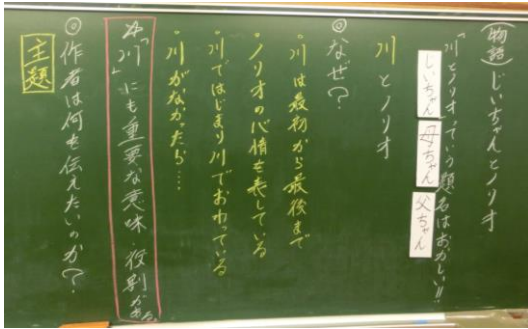
Rさん：お父ちゃんはすぐ亡くなって、母ちゃんもなくなってノリオにとって残ったのは、おじいちゃんとおじいちゃんより「川」？・・・「山」だったらどうなったんだろう(笑み)

Kさん：川とノリオだけが最初から最後までこの物語に出ているから。

授業者は、1回目の全体共有を入れる(写真①)、思考力・判断力・表現する力、対話的コミュニケーションにおいてはこの3つの力が自然と不可欠となる。相手の考えを寄せられるその言葉から理解し、自分の思考と重ね合わせ、違いや同じを理解し、さらに自分の意思を相手に伝える言葉で発言していかなければならない。・・・もがいた脳は活性する。



[問2：作者の主題にせまる] 作者は何を伝えたかったんだろう。



「川とノリオでは、登場人物の心情や形象を暗示的に表現しているのがこの教材の特徴と言える。子ども達には『作者が隠したメッセージを読み取ろう』と指示をだし、意欲・関心を高めつつ作者の暗示的な表現を見つけさせその文章から読み取れることをじっくり考えさせたい（授業デザインシート【授業者】より）。

授業中、授業者の口元から「みんなで広げよう」「みんなできなごう」という言葉が、子ども達に向かって語られた。教師の言葉が確実に子ども達の心に届いている。たくさんの教師たちが見守る中、担任の先生の期待にも応えようかと子ども達もきき合うことに妥協しない。なんて関係のいいクラスだ。授業者の思いまでが伝わっている。

Hさん：作者の伝えたかったことは、ノリオのお母ちゃんの死によって失って気づくものもある。しかし、失って取り戻せないものもある。というのが伝えたい事だと思います。

Mさん：川とノリオのように、川は人間いつも深い関係の中にある。

Rさん：戦争のことが書いてある。戦争で母ちゃんと父ちゃんが死んでしまう。だから戦争は大切な人の命を奪うので戦争はいけなない。

女の子：「川のように・・・」こだわる。「川のように一つの方向へまっすぐ力強く生きてほしい」

「川のように立ち止まらず生きてほしい。」

男の子：自分の周りにいる人たちを大切にしながら、強く前向きに生きてほしい。



[子どもの対話から学ぶ]

文学教材は、子ども達が作品をどう味わい、どれだけ親しむことができたかが大切である。さらに言うならば、子ども達が登場人物や、風景、状況をどのように脳裏に思い描いているかが一番重要はところである。それを知るためにはやはり仲間との対話から探ることが一番有効的である。

この子は、こんな言葉からこんな思いに至っていたんだ。この子はなぜこの言葉にこんなにもこだわっていたんだろう。私たち教師が学べる事実は、そのほとんどが子ども達の言葉・声であることを理解していきたい。



[2枚の写真]

しっとりときき合う。仲間の発言をしっかりと聴いている女の子。対話から子どもの心を探る授業者。この姿勢が1番大事にされなければならない。



[研究協議会]：低学年部会と高学年部会が一緒になって全体協議会



一学期も残り2週間。先生方の一学期を振り返っていただきました。今年赴任してきたばかりの教師もいる。数年たっても「学び」のスタイルがしっくりこないで疑念を持つ教師もいる。いまさら…いい加減ではないが…適当にやっていることにしている教師もいる。

教師も様々である。チェックシートを持ってグループ協議で本音が出ることもっとも大切である。



S先生、お疲れ様でした。ほんとに素敵なクラスですね。去年の5年生の時、この学年はちょっと違う空気をもった学年かな?と期待していました。今日その事実を確認することができてほんとによかったです。…まさに、『継続』銘対小の底力ですね。

左の写真どうですか?人は一生懸命になり夢中になると大人でもこんな顔になるんですね。私は素敵だと思います。本日、この教室で交わされた言葉、ほんとに誰のどんな言葉も大切にされ素敵だったのですが、私にとって一番印象的だったのは授業の終末に授業者の口から子ども達に向かって『今日は先生が、一番感動した。ありがとう。』の言葉でした。その時の子ども達の表情しっかりと観れましたか? 満足感。成就感に満ち溢れた慎ましい笑顔でした。その事実裏付けられた右写真です。素敵な授業ありがとうございました。国頭学びの会ゆい

